

カリブ海の小国の大きな勝利

12月6日カリブ海の人口7万2,000人の小国、ドミニカ国で総選挙が行われ、与党のドミニカ労働党（DLP）が、野党の統一労働者党（UWP）に圧勝しました。

ドミニカ国は、1978年イギリスから独立、DLPが政権を担当し、1978年独立後すぐ非同盟運動に加盟しました。その後ドミニカ自由党(DFP)、統一労働者党（UWP）が、政権の座につきましたが、2000年DLPとDFPの連合政権が成立、2004年10月DFPの首相が急逝し、DLPのスケリット氏が首相に就任、2005年、2009年、2014年とスケリット氏が率いるDLP単独政権が続きました。



2000年1月DLP政権が成立して、同党は、中南米・カリブ海の革新政党が参加するサンパウロ・フォーラムの参加政党で最初に政権党となりました。2008年1月スケリット首相は米州ボリーバル的統合構想（ALBA）への加盟を発表しました。米国との従属的な自由貿易協定よりも、協力、連帯、互惠、相互補完のALBAの理念に基づく関係を選択し、キューバ、ベネズエラ、ニカラグア、ボリビアについての加盟でした。2019年10月にはドミニカ国は、核兵器禁止条約を批准しました。ドミニカ国は、非同盟運動、CELAC（中南米・カリブ海諸国共同体）で主権の擁護、自決権の尊重、紛争の平和的解決の立場を一貫して主張するとともに、米州地域で米国や、米国主導の米州機構（OAS）に対して自主的な立場を守り、革新的な外交政策を堅持しています。

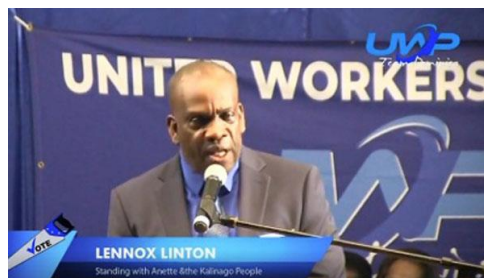


スケリット首相

ドミニカ国は、一院制で、今回は、21の議席が争われ、登録有権者74,895人のうち39,702人が投票、投票率は53.66%でした。投票結果は、ドミニカ労働党（DLP）が、得票数23,541票、得票率59.29%を得て17議席（2議席増）を、野党の統一労働者党（UWP）が16,161票、得票率40.71%を得て4議席（2議席減）を獲得しました。得票率からすれば、DLPが12議席、UWPが9議席となりますが、ドミニカ国では、小選挙区制が取られていますので、日本や欧米に見られるように、得票率の差以上に議席数の差が出た結果です。

投票日以前の数週間前から、米国政府の意向を汲むOAS（米州機構）に扇動されて、UWPの支持者たちは、選挙法の改正を訴え、街頭で過激なデモを行いました。しかし、政府は、カリブ海地域安全保障体制（RSS）に派遣を招請し、RSSの警官が治安の維持を図り、投票は平和的に行われました。軍隊を持たないドミニカ国が、RSSのセントビンセント・グレナディーン、アンティグア・バーブーダ、セントクリストファーネイビス（いずれもALBA加盟国）に警察の派遣を要請したものです。スケリット政府は、またカリブ共同体（CARICOM、

カリブ海の 15 ヶ国が加盟) に選挙監視団の派遣を要請しました。CARICOM は、11 月 30 日ジョセフィン・タマイを団長とする監視団を派遣しました。監視団には、アンティグア・バーブーダ、バハマ、バルバドス、ベリーズ、ジャマイカ、セント・ルシア、セントビンセント・グレナディーン、スリナムの専門家が代表団に参加しました。



UWP リントン党首

DLP の勝利に、ベネズエラのマドゥーロ大統領、アレアサ外相、キューバのディアス＝カネル大統領、ロドリゲス外相、ニカラグアのオルテガ大統領、ラロック CARICOM 事務総長などから祝福のメッセージが寄せられました。

本年 8 月 CARICOM＝ドミニカ国＝OAS の三者でドミニカ国の選挙制度を話し合いましたが、OAS は、一方的に東カリブ諸国機構 (OECS) の最高裁にドミニカ国は選挙改革を行うべきで、12 月 6 日の総選挙を実施しないように提訴しました。しかし、同最高裁は、12 月 5 日これを却下しました。東カリブ諸国機構 (OECS) の議長、アンティグア・バーブーダのブラウン首相は、OAS が言うような選挙数週間前に選挙改革を行うのは不可能だとのべました。こうして、ドミニカ国政府は、治安維持も、選挙監視も、自分たちのカリブ海地域の機構を使って行い、選挙を整然と透明に実行したのでした。ALBA 常設委員会も OAS が権限を離れてドミニカ国に行った干渉行為は許されないものと批判しています (Prensa Latina 19.12.07)。こうした理由からスケリット首相は、ボリビアのように恣意的に選挙を不当とする OAS の選挙監視団の派遣を受け入れず、また招請もしなかったのです (ibid.)。



12 月 4 日野党の暴動

確かに、ドミニカ国の選挙制度は、国会議席総数 32 名のうち 21 名を小選挙区制で選出し、残りの 9 議席は大統領により任命されますが、5 議席は首相の助言に従い、4 議席は野党の党首の助言に従い任命します。したがって、今回は DLP は 22 議席、UWP は 8 議席となります。その他 2 名は、国会議長と検事総長です。小選挙区制の問題など、確かに今後改善する点はあるようです。スケリット首相も、選挙後、「選挙は公正かつ自由に行われたが、今後時間を十分とって選挙改革を討議しよう、わが国の政治制度で未だ報われていない人々にも、より多くの人々にドミニカ国がもっている資源がもっと届くようにしなければならない。議会の野党との関係を改善する仕組みを作り出さなければならない」と支持者に呼びかけました。選挙制度の不備は、いろいろな国にも見られますが、例えばチリの選挙制度について OAS は、不公正があるので是正するような勧告を出したことがありません。まったくの二重スタンダードなのです。

米国の意向を汲む OAS のアルマグロ事務総長は、キューバ、ベネズエラ、ニカラグア、ボ

リビアの自主的な立場を苦々しく見ており、ボリビアの次は*、小国ドミニカ国の DLP 政権を転覆する絶好の機会と考えたようです。OAS は、ドミニカ国が、選挙制度の改善に取り組もうとする態度に便乗し、時間的余裕のない選挙前に改革を提案し、それが実行されなければ、勝利が予想される DLP に正当性がないと非難し、野党とともに過激なデモを行い国内を混乱状態に陥れ、野党が別な首相を樹立するという考えは十分予想されたことでした。しかし、スケリット首相は、OAS の策謀には乗らず、東カリブ諸国、CARICOM の協力を得て、いわば自前の力で危機を乗り切ったのでした。小さな国の、大きな勝利でした。

*ボリビアの野党のクーデターによるエボ・モラーレス政権打倒事件は別稿を期します。

2019年12月9日 新藤通弘